

3. 主要事業の概要

【事業規模(事業収入)】

(単位:千円)

事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度 予算	備考
① 花き卸売市場賃貸	667,174	666,168	649,020	657,672	
全事業合計に占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
全事業合計	667,174	666,168	649,020	657,672	
全事業合計に占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

【事業計画及び事業実績】

事業内容	事項	事業量		備考
		平成29年度事業量	平成30年度計画量	
施設の管理運営	大阪鶴見花き地方卸売市場	せり資格者数 1,035人 取扱高 24,950,150千円	せり資格者数 1,029人 取扱高 26,000,000千円	

4. 大阪府の財政的関与の状況

(単位:千円)

区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度 予算	補助金、委託料等の内容
補助金	0	0	0	0	
委託料	0	0	0	0	
貸付金	0	0	0	0	
その他(分担金・負担金・出捐金等)	0	0	0	0	
合計	0	0	0	0	

府損失補償・債務保証契約に係る債務残高(期末)	0	0	0
府借入金残高(期末)	0	0	0

5. 財務状況

(単位:千円)

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	前年度比増減	分析・評価
貸借対照表	資産合計	2,382,971	2,343,536	2,257,708	△ 85,828	
	流動資産	550,144	543,604	396,181	△ 147,423	(現金預金)
	現金預金	463,390	464,173	324,318	△ 139,855	現金預金は、借入額返済(196,762千円)による減が主な要因である。
	未収金	2,114	1,919	5,019	3,100	
	その他流動資産	84,640	77,512	66,844	△ 10,668	
	固定資産	1,832,826	1,799,932	1,861,527	61,595	(有形固定資産)
	有形固定資産	1,824,063	1,793,490	1,843,357	49,867	有形固定資産の増加は、展示コーナーリニューアル工事を含む改修工事に伴う増(132,540千円)に対し、建物等を減価償却したことによる減(88,977千円)が主な要因である。
	無形固定資産	655	655	655	0	
	その他固定資産	8,108	5,786	17,515	11,729	
	負債合計	489,986	398,641	270,675	△ 127,966	
	流動負債	249,828	287,876	99,839	△ 188,037	(短期借入金)
	短期借入金	156,682	169,492	56,757	△ 112,735	短期借入金の減少は、計画的な返済による減(112,735千円)によるものである。
	未払金	64,082	102,590	26,408	△ 76,182	
その他流動負債	29,064	15,794	16,674	880	(未払金)	
固定負債	240,158	110,765	170,835	60,070	未払金の減少は、修繕費や業務委託等に係る未払金の減(76,182千円)によるものである。	
長期借入金	140,670	11,178	71,151	59,973	(長期借入金)	
各種引当金	0	0	484	484	長期借入金の増加は、展示コーナーリニューアル工事を含む改修工事に係る費用の借入による増(59,973千円)が主な要因である。	
その他固定負債	99,488	99,587	99,200	△ 387		
資本合計	1,892,985	1,944,895	1,987,034	42,139		
資本金	1,800,000	1,800,000	1,800,000	0		
剰余金	92,985	144,895	187,034	42,139		

損益計算書	売上高	667,174	666,168	649,020	△ 17,148	(売上高)
	売上原価	454,952	509,796	485,199	△ 24,597	売上高の減少は、市場取扱高が減(1,205,653千円)に伴う売上賃料の減(18,847千円)が主な要因である。
	販売費及び一般管理費	83,356	79,222	88,312	9,090	
	営業利益(損失)	128,866	77,151	75,510	△ 1,641	
	営業外収益	5,332	5,204	5,126	△ 78	(売上原価)
	営業外費用	3,266	1,591	897	△ 694	売上原価の減少は、修繕費の減(33,903千円)が主な要因である。
	経常利益(損失)	130,931	80,763	79,739	△ 1,024	
	特別利益	0	0	0	0	(特別損失)
	特別損失	4,005	3,582	14,227	10,645	特別損失の増加は、展示コーナーリニューアル工事を含む改修工事に伴う固定資産撤去費の増(14,035千円)が主な要因である。
	法人税等	29,585	25,271	23,373	△ 1,898	
当期利益(損失)	97,341	51,910	42,139	△ 9,771		
繰越利益剰余金	92,985	144,895	187,034	42,139		

※単位未満は四捨五入を原則としたため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

仕組債の保有状況	保有総額＜平成29年3月31日時点＞	保有総額(A)＜平成30年3月31日時点＞	時価評価額(B)＜平成30年3月31日時点＞	保有総額と時価評価額差(B)-(A)
	0	0	0	0

主な経常費用	平成27年度	平成28年度	平成29年度	前年度比増減	分析・評価
役員人件費	10,442	10,315	10,023	△ 292	(職員人件費) 職員人件費の増加は、期限付職員に係る経費の増が主な要因である。
職員人件費	49,254	44,558	48,906	4,348	
退職給付費用	0	0	0	0	
減価償却費	92,160	80,179	88,977	8,798	

主要経営指標		平成27年度	平成28年度	平成29年度	前年度比増減	分析・評価
人件費比率	人件費／売上高	8.9%	8.2%	9.1%	0.9%	(流動比率) 流動比率の上昇は、借入金の返済による流動負債の減少が、流動資産の減少を上回ったことによるものである。
販売管理費比率	販売費及び一般管理費／売上高	12.5%	11.9%	13.6%	1.7%	
総資産当期利益率	当期利益／総資産	4.1%	2.2%	1.9%	-0.3%	
総資産回転期間	総資産/(売上高/12) (月)	42.86	42.22	41.74	-0.48	
売上高経常利益率	経常利益／売上高	19.6%	12.1%	12.3%	0.2%	
流動比率	流動資産／流動負債	220.2%	188.8%	396.8%	208.0%	
借入金比率	借入金残高／総資産	12.5%	7.7%	5.7%	-2.0%	

6. H29年度 経営目標の達成状況

I. 最重点目標(成果測定指標)

戦略目標	成果測定指標	単位	H28実績	H29目標	H29実績 (※1)	ウェイト	得点(※2)	小計(※3)
① 収益力の向上	当期純利益	千円	51,910	43,569	42,139	30	0	0/30 【0%】

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

③ 花き卸売市場運営事業の活性化	市場取扱高	億円	261	270	250	15	0	20/55 【36%】
	市場活性化のための卸売業者等と連携したイベント等の開催支援	回	8	8	8	10	10	
	若手買受人の育成を図るため研修会等を開催	回	5	5	5	5	5	
④ CS調査	花き小売業者を対象とした不満足度	%	18	15	21	20	0	
	生産・流通情報の収集提供の実施(プロセス)	件	10	10	10	5	5	

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

② 花き卸売市場運営事業の効率的実施	売上高営業利益率 (花き卸売市場運営事業 営業利益 /花き卸売市場運営事業 売上高)	%	11.6	11.0	11.6	15	15	15/15 【100%】
--------------------	--	---	------	------	------	----	----	-----------------

※1 網掛けは目標達成項目。

※2 目標値が前年度実績以上の場合、当該年度の実績値が目標値に到達しないときでも、達成状況に応じて加点を行う。

※3 小計の【 】は得点率。

7. 評価結果

法人の総合的評価結果	点数(合計)	役員業績評価
<p>「市場取扱高」について、取扱数量は対前期比で1.3%の減少であったが、天候不順による入荷時期のズレなどの価格低下の影響により、取扱金額は対前期比で4.6%の減少となり、249億52百万円となった。</p> <p>市場取扱高の減少に伴い、使用料収入が減少したため「当期純利益」が42百万円となった。</p> <p>また、「花き小売業者を対象とした不満足度」が21%となり、最重点目標を含めた3項目で目標が未達成となった。</p> <p>今後は、保有資金の状況も踏まえながら施設整備を行うことにより当市場の施設機能を向上し、より競争力のある市場に発展するよう努める。</p> <p>また、昨年に引き続き、業務委託料や人件費等の経費削減に努める。これらの取組みにより収益を確保する。</p>	35	C

8. 府の審査・評価の結果

審査の結果	経営状況、事業の実施状況その他の事項に関する府の評価結果及び指導・助言
<p>① 花きの消費量は、平成27年、28年、29年の1世帯あたりの支出額をみると、9,616円、9,317円、8,757円(総務省統計局家計調査より)と年々減少。 こうしたマーケットの影響を受け、本花き市場の取扱数量は対前年比△1.3%、取扱金額は対前年比△4.6%の249億50百万円となり、取扱高目標値270億円に届かなかった。</p> <p>② 府民への花きの安定供給を行うというミッションを果たすために老朽化に伴う改修や機能向上を図る必要がある。</p> <p>③ 取扱高が目標に対して大きく落ち込んだことから市場動向を踏まえた分析検証を行い、中期経営計画の見直しも視野に今後の経営計画の策定が必要。</p>	<p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「売上高営業利益率」は目標を達成したものの、「市場取扱高」が大きく落ち込み、その結果「当期純利益」も目標に届かなかった。 ・「花き小売業者を対象とした不満足度」については、昨年度に引き続き、目標未達成となっている。 <p>(指導・助言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、民営化を進めていくためにも、企業価値の向上は不可欠なことから、花きの消費拡大に繋がる支援活動の推進や、市場関係者の活性化のための多様なサービスの提供を通じて、市場取扱高の拡大を目指すこと。 ・「花き小売業者を対象とした不満足度」については、市場関係者のニーズを踏まえ、引き続き改善に向けた取組みを行うこと。 ・「市場取扱高」については、これまでから目標を達成できておらず、また、中期経営計画の目標値と大きく乖離しているため、早期に中期経営計画の見直しを検討されたい。

9. 「平成30年度大阪府行政経営の取組み」における方向性(平成30年2月)

○民営化

- ・累積赤字解消後に府保有の株式を売却
- ・ただし、売却時期については、今後必要となる大規模修繕等を踏まえ、企業価値を見極めた上で判断する

10. 経営目標設定の考え方

ミッション

○安定的な花き流通の維持
 ・消費者に新鮮で多彩な花をより早く届けるため、質・量ともに豊富で安定的な供給体制をつくる

○自主性を高めた経営体制の構築
 ・府市と協議しながら民営化を中期経営計画期間内に進める
 ・民営化に向け、経営の自主性を高めることにより、市場の活性化のための多様なサービスを効率的に提供できる体制を構築

■ 大阪府の施策

「卸売市場の計画的整備と取引の合理化
 ・機能の高度化」

基本方針

1 市場運営の効率的・効果的な経営
 ・経営改善に取り組み、効率的に収益力を上げ、単年度黒字を維持する

2 市場活性化事業の取組み
 ・卸売業者や仲卸業者と協働で市場活性化に取り組み、当市場取扱高の維持・拡大を目指す

戦略目標と成果測定指標【中期経営計画上の目標値】

① 収益力の向上

・当期純利益
 【97,341千円(H27実績)
 → 76,163千円(H31)】

② 花き卸売市場運営事業の効率的実施

・売上高営業利益率
 【19.3%(H27実績) → 17.9% (H31)】

③ 花き卸売市場運営事業の活性化

・市場取扱高
 【266億円(H27実績) → 270億円(H31)】
 ・市場活性化のため卸売会社と連携したイベント等の開催支援
 【8回(H29実績) → 8回(H30)】
 ・若手買受人の育成を図るため研修会等を開催
 【5回(H29実績) → 5回(H30)】

④ CS調査

・花き卸売市場に対する買受人の不満足度
 【21%(H29実績) → 18%(H30)】
 ・生産・流通情報の収集提供の実施(プロセス指標)
 【10回(H29実績) → 10回(H30)】

11. H30年度 目標設定表

I. 最重点目標(成果測定指標)

戦略目標	成果測定指標	単位	H28実績	H29実績	H30目標	ウエイト (H30)	中期経営計画 最終年度 目標値(H31)	
① 収益力の向上	当期純利益	千円	51,910	42,139	34,873	30	76,163	
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)								具体的活動事項
最重点とする理由、 経営上の位置付け	<p>○当市場が我が国の中核的二次市場の一翼として安定的な花き流通に寄与するとともに、魅力ある市場としての機能拡充を図り、より競争力のある市場をめざす。</p> <p>○府市と協議しながら民営化を進める。ただし、株式の売却については、今後必要となる大規模修繕等を踏まえ、企業価値を見極めた上で判断する。</p>						<p>市場施設の整備と機能向上を図り、優先順位をつけた投資判断を行う。取扱高の増加につながる企画立案を行い、収益の確保を行う。</p> <p>【経費節減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人件費の節減 ・ごみの分別を徹底し、廃棄物処理費を削減 ・産業廃棄物や一般廃棄物の収集運搬及び処分業務、段ボール箱売却等について入札を実施済み 	
最重点目標達成のための 組織の課題、改善点	<p>○開場23年を超えており、長期修繕計画等を踏まえ、優先度・緊急度・財務状況等を勘案し計画的に施設改修や設備更新を図り、より一層、市場機能の向上に向けた投資にも取り組み、市場価値を向上していく。</p> <p>○収支バランスの取れた投資判断を行うとともに、収益力の向上をめざす。</p> <p>○人件費の節減、ごみの分別排出を徹底し処理量を減らすこと等による市場内の維持管理経費の削減などにより、支出の削減を図る。</p>						<p>【施設整備と機能向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せりシステム等更改の検討 ・効率的な物流体系の構築に向けて関係者との調整 ・市場内施設の修繕・更新の優先順をつけて実施 ・場内環境の整備 	
活動方針	○市場を取り巻く厳しい環境を踏まえて、一層の経費節減を図る。							

Ⅱ. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	単位	H28実績	H29実績	H30目標	ウエイト (H30)	中期経営計画 最終年度 目標値(H32)	戦略目標達成のための活動事項
③ 花き卸売市場運営事業の活性化	市場取扱高	億円	261	250	260	15	270	・市場関係者が開催する商談につながる展示会等を共同実施するなど支援し、取扱高の増加に取り組む ・全国展開のキャンペーンや他社集客イベントとの共催など花の消費拡大を一層進め、市場の活性化を図る。 ・研究者等の活用を通じて、一般消費者への花の関心の掘り起こし、買受人の花き勉強会の支援、啓発活動を行う
	市場活性化のための卸売業者等と連携したイベント等の開催支援	回	8	8	8	10	-	関西花消費拡大委員会など市場関係者と一体となって花き業界全体の売上高改善に向けた取り組みを行う。
	若手買受人の育成を図るため研修会等を開催	回	5	5	5	5	-	・若手買受人の育成を図るため、IT、経営改善、市場動向等について研修会を開催する。 ・若手買受人独自開催の勉強会について講師紹介やテーマ相談等の支援を行う。 ・若手買受人等と消費者の購買力に働きかけるようなストーリーを作り、市場取扱高の向上を目指す。
④ CS調査	花き小売業者を対象とした不満足度	%	18	21	18	20	-	・館内放送の改善 ・車の入場規制・誘導方法、市場内物流の改善 ・掲示機能の充実 ・トイレ改修 ・防火・防災対策(見学者通路の整備) 等に取り組む。
	生産・流通情報の収集提供の実施(プロセス)	件	10	10	10	5	-	卸売業者と一体となって産地と消費者ニーズをつなぐため、生産・流通情報の収集、提供を行う。(卸売業者からは産地の生育、被害状況や出荷(量・時期)状況を、買受人からは、小売業者から得られる消費者ニーズについて情報収集と提供を行う)

Ⅲ. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

② 花き卸売市場運営事業の効率的実施	売上高営業利益率 (花き卸売市場運営事業 営業利益 ／花き卸売市場運営事業 売上高)	%	11.6	11.6	8.5	15	-	市場活性化事業などにより、市場取扱高の維持・拡大を目指す。優先順位を付けた修繕、更新の設備投資を行い、売上高、営業利益率の向上に努める。
--------------------	--	---	------	------	-----	----	---	--

※ ()は当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値